

令和6年4月12日
公益社団法人
国土緑化推進機構

第33回「みどりの文化賞」受賞者の決定について

公益社団法人国土緑化推進機構は、第33回「みどりの文化賞」受賞者を以下のとおり決定いたしました。

「みどりの文化賞」の表彰は、令和6年5月11日（土）、イイノホールで開催する第33回森と花の祭典「みどりの感謝祭」式典において行います。

「みどりの文化賞」受賞者には、

- ア みどりの感謝祭名誉総裁（皇族殿下）の表彰状
- イ 公益社団法人国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞が授与されます。

受 賞 者 しおの よねまつ
塩 野 米 松 氏
(作家)

問合わせ先： 公益社団法人国土緑化推進機構 担当： 中 井 電話 3 2 6 2 - 8 4 5 7

第33回みどりの文化賞 ～失われゆく木の文化・技術を「聞き書き」で残す～



(受賞者)

しおの よねまつ
塩野 米松 (77才)
(作家)

1 塩野米松氏は、1947年、秋田県角館に生まれ、東京理科大学理学部応用化学科卒業後、全国各地を旅して漁師や職人の聞き書きを行い、失われゆく伝統文化・技術の記録に精力的に取り組んできている。

著書に宮大工棟梁・西岡常一、小川三夫、その弟子たちからの聞き書き『木のいのち木のこころ』のほか、『木の教え』『手業に学べ』『不揃いの木を組む』『屋久島の山守千年の仕事』などがある聞き書きの名手である。また、氏の数多い著書には、氏が生まれ育った昭和30年代の東北地域の風景が生き生きと写し出されており、読者に今は失われた風景を思い起こさせてくれる。

2 氏はその創設に深く関わってきた「聞き書き甲子園」（事務局：NPO法人共存の森ネットワーク）は、既に22回を迎えた。

「聞き書き甲子園」は、高校生が、日本のさまざまな地域で暮らす森・川・海の名人―その職業は、樵や炭焼き、木工職人、漁師、海女など、さまざま―を訪ね、一対一で「聞き書き」するプロジェクトである。

3 その聞き書きの成果は、データベースとして整理・公開され、すでに1500件を超えており、氏が進めてきた「伝統文化・技術の記録」の成果の一つとなっている。

4 全国各地に残され・失われつつある伝統文化・技術に未来を見だし続けている氏の活動は、時代が急速に移ろいゆく中でその価値を高めつつある。

以下に引用した氏の著述に氏の思想がよく現れている。

永年にわたって取り組んできた「伝統文化・技術の記録」の取組とその成果について高く評価したい。

(聞き書き甲子園 HP より・塩野氏の推薦文(抜粋))

(前略) 私たちは森と共に生きる人々の暮らしや生き方を知ってもらいたくて、「森の聞き書き甲子園」を始めました。(中略) 名人は、単なる知識としての自然や森だけでなく、生活の一部として向き合ってきた自然や森を語ってくれます。高校生のまとめた聞き書き作品は、森と人のつながりを知る、大事な手がかりになるのではと思っています。(後略)

(中公文庫「失われた手仕事の思想」2001 まえがきより抜粋)

(前略) 手仕事主流だった時代は小さな社会であった。作り手は使い手が誰であるかを知っていたし、使い手は自分の気に入った作り手を選ぶことができた。そうした小さな社会で生き抜くためには、作り手は常に最高の品を作り出すことを心がけなければならなかった。(中略) 知らぬ間に終わってしまった手仕事の時代とその背景にあったものを確認しておきたいと思った。今ならまだ振り返ることができる。まだ手仕事の時代はすぐ後ろにあるのだ。(後略)

(受賞歴等)

1992 「昔の地図」で第107回芥川賞候補

以後、1993「オレオレの日」、1994「空っぽの巣」、1996「ペーパーノーチラス」と計4回候補

2003 『なつのいけ』で日本絵本賞大賞

国際天文連合より小惑星11987にYONEMATSUの名を授与



塩野氏による「聞き書き」講義

(参考)

みどりの文化賞の概要

1 概要

平成2年、国民の祝日「みどりの日」が制定されたことを記念し、緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に役立てるため、緑や森林に関して顕著な功績のあった者（個人または団体）を顕彰する「みどりの文化賞」を創設しました。

その後、東日本大震災の影響により平成23年と、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年に中止したほかは、毎年「みどりの感謝祭式典」において表彰してきています。

2 選考方法

幅広い分野の学識経験者等で構成する「みどりの文化賞選考委員会」において、選考基準を定めています。

選考基準に基づき、広く学識経験者等から顕著な功績のあった者の推薦を受け、選考委員会において「みどりの文化賞」にふさわしい者を審査・選考し、受賞者を決定しています。

3 表彰

「みどりの月間」中に開催される「みどりの感謝祭」の式典において表彰します。

みどりの文化賞受賞者には、

- ① みどりの感謝祭名誉総裁名（皇族殿下）の表彰状
- ② 国土緑化推進機構会長（衆議院議長）の賞牌及び副賞

が授与されます。

4 今後のスケジュール

4月中旬 プレスリリース

5月11日（土） 表彰式（みどりの感謝祭式典・イイノホール）（予定）

みどりの文化賞選考委員

(五十音順：敬称略)

- | | |
|---------|---|
| 青 山 佳 世 | フリーアナウンサー |
| 飯 塚 帆 南 | 2016年度ミス日本みどりの女神、みどりの広報大使
UNIVERSITY of CREATIVITYグローバルプロデューサー |
| 今 井 通 子 | 国際自然・森林医学会会長、登山家
東京農業大学客員教授 |
| 倉 本 聰 | 脚本家
NPO法人富良野自然塾塾長 |
| 渋 澤 寿 一 | NPO法人共存の森ネットワーク 理事長 |
| 末 綱 隆 | 元東宮侍従長 |
| 永 田 信 | 公益社団法人大日本山林会 会長 |
| 滑志田 隆 | 毎日新聞 終身名誉職員 |
| 箕 輪 光 博 | 東京大学 名誉教授 |
| 宮 林 茂 幸 | 東京農業大学 名誉教授 |

「みどりの文化賞」のこれまでの受賞者

- 第1回 戦後の森林造成と国土緑化
(受賞者) 徳川宗敬 氏 (故人への顕彰)
- 第2回 木の文化の継承、発展に貢献した者
(受賞者) 西岡 常一 氏
- 第3回 森林と水との関わりを社会にひろめる
(受賞者) 財団法人 水利科学研究所
- 第4回 森林と水の守り手、山村を支える
(受賞者) 黒澤 丈夫 氏 (個人 群馬県上野村長)
- 第5回 森林と水の守り手、山村を支える
(受賞者) 宮崎県諸塚村
- 第6回 ボランティア活動による森林づくり
(受賞者) 草刈り十字軍
- 第7回 持続的森林経営をめざす森林づくり
(受賞者) 高橋 延清 氏
- 第8回 大都会のなかでの自然豊かな森林づくり
(受賞者) 明治神宮の森
- 第9回 海を蘇らせた森林づくり
(受賞者) えりも岬の緑を守る会
- 第10回 「森林文化」の新たな展開
(受賞者) 筒井 迪夫 氏
- 第11回 民間公益団体による緑化活動支援
(受賞者) ゴルファーの緑化促進協力会 (GGG)

- 第12回 上下流の協力による森林づくり
(受賞者) (財) 矢作川水源基金
- 第13回 国際緑化活動の推進
(受賞者) 神足 勝浩 氏
- 第14回 地方自治による山村活性化への取り組み
(受賞者) 松形 祐堯 氏
- 第15回 国民参加の森林づくり運動の推進
(受賞者) 高木 文雄 氏
- 第16回 民間団体等による「国民参加の森林づくり」運動支援
(受賞者) 株式会社 ローソン (ローソン緑の募金)
- 第17回 森林を活かし、木の文化の伝承に貢献した者
(受賞者) 小原 二郎 氏
- 第18回 森林文化を未来に引き継ぐ森林管理
(受賞者) 神宮司庁営林部 (伊勢神宮宮域林)
- 第19回 民間団体による国際緑化活動の推進
(受賞者) (財) オイスカ
- 第20回 森林と人との豊かな関わりを目指して
(受賞者) 北村 昌美 氏
- 第21回 伝統の技が生み出す木の文化
(受賞者) 田中 文男 氏
- 第22回 「水と緑と土」は、豊かな自然の原点
(受賞者) 富山 和子 氏
- さくらは日本のシンボル～大震災からの復興の励みに～
(受賞者) 佐野 藤右衛門 氏

第23回 日本の山から明るく豊かな展望の到来を願って

(受賞者) 島崎 洋路 氏

第24回 「森林(もり)森林の力を地域の力に」の実現を目指して

(受賞者) 中越 武義 氏 (個人 元高知県梶原村長)

第25回 「森は海の恋人」運動の実践を通じ豊かな日本の未来を目指して

(受賞者) 畠山 重篤 氏

第26回 「森の再生」と「心の再生」－豊かな森が持つ可能性を信じて－

(受賞者) C. W. ニコル 氏

地域資源とその機能を最大限に活用した地方創生

(受賞者) 岩手県 葛巻町

第27回 再生産可能な未来のエネルギーの礎を築く

－木質バイオマス利用と農山村の振興への願いを込めて

(受賞者) 熊崎 実 氏

第28回 森が育む幼児の力

(受賞者) 佐藤 清太郎 氏

NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟

第29回 森林科学の未来を拓く

(受賞者) 木平 勇吉 氏

第30回 私は森林の案内人

(受賞者) 田中 惣次 氏

第31回 市民・女性の視点で森林づくりを広める

(受賞者) 池谷 キワ子 氏

第32回 市民参加による森林づくりを支える

(受賞者) NPO法人森づくりフォーラム